



PM C
matchday program



2015
8.14 (fri)

VOL.04

第39回 総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント 準決勝

真の大学日本一へ

PHOTO:Reiko Iijima



ゴミは各自で
お持ち帰りください。



発行：関西学生サッカー連盟
TEL 06-6268-6400
WEB <http://www.jufa-kansai.jp/>

Match Preview 試合の見どころ

ヤンマースタジアム長居

15:30 KICKOFF

Reported by 関西学連

筑波大学

VS

関西学院大学

「連戦なのでコンディションのいい選手を使ったが、もちろん次も方針は変わらない」と筑波大学・小井土正亮監督。今度はそれプラス「勝ちにい」と欲を加えた。福岡大学戦で機能した2枚のボランチが予想以上に、攻守のカナメ的存在になった。そのことで守りの中心2人のセンターバックが「いける存在になってきた」と小井土監督はホホを緩めた。もともと筑波大学は能力を秘めた選手を揃えている。タクト次第では100%違ったチームを現出できる可能性がある。「勝てばインカレの夢もそこに来る」と発散するような活力は見られないが、秘めた闘志で筑波大学は大会の旋風児になるうとしている。

「鍛錬できるチャンスをいただいたのだから。目一杯活用します」が口癖になった関西学院大学・成山一郎監督。だがやみくもに突っ走るのではなく、「冷静なところは冷静に、熱くならねばならないところは熱く—をわかまえて」と付け加えた。2回戦の高知大学戦では、持ち味の攻撃力を封じられて無得点、PK戦でやっと勝ち抜いた。その教訓は法政大学戦では、すぐ生かされた。「筑波大学は大事に攻めてくる。前からしっかりプレスして、自信のある攻撃力を生かせるゲームをやれば、道は開けてくる」と。DF16、小川原一輝のケガが心配だが、万全の攻守で次戦に臨みたいところ。

ヤンマースタジアム長居

18:00 KICKOFF

Reported by 岡田浩幸(読売新聞社運動部)

明治大学

VS

流通経済大学

関東を代表する強豪同士の対戦となった。流通経済大学は、準々決勝で攻撃力のある阪南大学を無失点に抑え、GK1、中島宏海主将(4年)は「失点0は常に意識しているし、それがうちのベースになっている」と自信をのぞかせる。3連覇がかかる今大会も「学校としてはそうだが、自分たちにとっては、新しい挑戦。(勝ち上がって)楽しみが増えていくという感じ」と重圧を感じさせない。

明治大学も準々決勝・東洋大学戦は攻守ともにほぼ完璧な内容で、FW11、藤本佳希(4年)のスピードを生かした突破など持ち味を存分に発揮した。連戦だが選手を入れ替えながら起用し、FW10、和泉竜司(4年)ら主力選手についても「体調はまったく問題ない」と栗田大輔監督。流通経済大学戦に向けて「一戦一戦やっていだけ。関東チャンピオンとして負けられない」と自信をのぞかせた。

関西学生サッカー連盟公式SNS

- ① 試合前日には、公式facebookにて試合の見どころをご紹介します！！
 - ② 試合当日には、公式Twitterにて全会場の前半スコア&試合終了時スコアを投稿！！
- ※当日のメンバー表&公式記録は公式facebookにて投稿します。
- ③ 試合後の詳しい結果を公式facebookにて投稿！！

各公式サイトへは下記のQRコードより読み取り、アクセスしていただけます。
大会情報盛りだくさんの関西学生サッカー連盟公式SNSをぜひご活用ください！

SNSアカウント一覧

Ameba



facebook



Twitter



禁煙・ゴミの持ち帰りに
ご協力をお願いします。



イベント案内

勝敗予想を実施！

応援するチームの勝利を予想してください！
各会場に設置してある勝敗予想BOXに用紙をお入れください。

見事、あたたか方には抽選で
(株)マンダム提供のステキな景品をプレゼント！



Match Review Result & Report

Reported by 関西学連

筑波大学	vs	福岡大学
------	----	------

2016年8月12日(水) 15:30キックオフ
会場/J-GREEN堺・メインフィールド 天候/晴 入場者数/460人

筑波大学	3	3-0 0-1	1	福岡大学
12分 中野誠也(吉川修平)		得点		63分 稲葉修士(山道洋司)
23分 早川史哉(村山努)		(アシスト)		
39分 中野誠也				

「調子のいい選手を使った」という筑波大学・小井土正亮監督だが、選手たちに潜在能力があったにしても、そんなに簡単にチームが変わるわけではない。筑波大学は2回戦で、北陸大学に大苦戦した。そのことが教訓になっている。このゲーム、筑波大学は初心にかえてというか、素晴らしいゲーム運びで福岡大学に完勝した。大胆にサイドバック、FWに加え、MFを4人とも、と実に6人をごっそり入れ替え、ゼロからスタートということもあっただろう。中でもMF26、村山努、MF7、三宅智大のボランチが機能したことで、攻守にスムーズさが出た。12分、右サイドから攻めて、MF10、吉川修平、FW11、中野誠也とボールがつながって早々と先制。早い段階での得点は筑波大学には潤滑油になった。中盤のポゼッションを生かした攻めは、23分には追加点となって実った。右CKを生かして福岡大学DF陣のもたつきを利してDF8、早川史哉が決めた。それでも筑波大学の勢いは止まらない。さらに39分には左サイドを独走した中野で3点目、ほぼ勝敗を前半で決めてしまった。後半の筑波大学は、大量リードをしていることもあって、攻守に前半ほどの緻密さ、スムーズさを欠いたが、持てるチーム力の底深さを感じさせた。負けた福岡大学。スタートからもたつた。最も大きな敗因は、筑波大学の速さに局面で後れを取ったことだろう。そのためにボールのつながりにスムーズさを欠いて、63分、個人技といつていい、MF10、稲葉修士のロングシュートで1点を返すにとどまった。



Reported by 関西学連

法政大学	vs	関西学院大学
------	----	--------

2016年8月12日(水) 18:00キックオフ
会場/J-GREEN堺・メインフィールド 天候/曇 入場者数/441人

法政大学	1	1-1 0-1	2	関西学院大学
41分 ディサロ燦シルヴァーノ		得点		39分 呉屋大翔(徳永裕大)
		(アシスト)		48分 森俊介(森信太郎)

内容の濃い白熱したゲームになったが、関西学院大学が48分、MF11、森俊介が叩き込んだ貴重な勝ち越し点を守り切って関西勢で唯一準決勝に駒を進めた。関西学院大学はユニバーシアード代表で、大会屈指のストライカーFW13、呉屋大翔を中心に攻撃力を標榜するチーム。一方の法政大学はDF22、田代雅也を要に安定した守備力を誇るチーム。盾と鎗の戦いは予想通り中盤のアドバンテージを掛けた激しいものになった。優劣が決まらぬ中で、関西学院大学がエース呉屋で先制点を奪い取った。39分、関西学院大学は右サイドを突破したMF7、徳永裕大からのクロスに呉屋がヘッドで合わせた。法政大学DF2人に挟まれた中でのヘディングで、ストライカーの面目躍如の先取点だった。だが法政大学も負けてはいない。その2分後の41分、左サイドを駆けあがったFW25、ディサロ燦シルヴァーノが左足を一閃、ロングシュートで追いついた。両チームの攻守はめまぐるしいまでの速さと激しさと、ゲームの展開は内容のあるものになった。その中で関西学院大学は、後半に入ってすぐの48分、森コンビで勝ち越し点を手中にした。ゴール前中央やや左のMF10、森信太郎—MF11、森俊介でもぎ取ったもので、これが決勝点になった。守備力を全面に押し出す法政大学としては、この2点目の失点は大きなダメージなただろう。悔やまれる1点を追って法政大学は、後半の終盤、猛攻を仕掛けたが、関西学院大学に守り切られて涙を飲んだ。



Match Review Result & Report

Reported by 岡田浩幸(読売新聞社運動部)

阪南大学 vs 流通経済大学

2015年8月12日(水) 15:31キックオフ
会場/ヤンマーフィールド長居 天候/晴 入場者数/1130人

阪南大学	0	0-0 0-1	1	流通経済大学
		得点 (アシスト)	84分 西谷和希(ジヤーマイン・渡邊新次)	

ともに優勝経験のある大学同士の対戦は、序盤から激しい攻防となった。阪南大学は右サイドのMF,7八久保颯(4年)の突破、前線のFW33,前田央樹(3年)のポストプレーを起点に形を作ろうとするが、最後の部分でパスミスやトラップミスがでて、なかなかゴールまで迫れない。一方の流通経済大学はセットプレーやロングスローから好機を作るがゴールは遠かった。そんなじりじりした展開が大きく動いたのは、41分。阪南大学は左サイドからのクロスに合わせた八久保が、ペナルティーエリア内で倒され、PKを獲得した。決めれば試合の流れを大きく引き寄せる場面。しかしMF14,松下佳貴主将(4年)がこれをゴールポストに当てて、失敗。先制の最大のチャンスを逃すと、後半は一進一退ながら、徐々に流通経済大学が押し込む。83分にはロングスローからMF11,ジヤーマイン良(2年)が飛び込むが、ここは枠をとらえられず。しかし直後の84分、右サイドから攻め、最後は途中出場のMF8,西谷和希(4年)が蹴りこんで、これが決勝点となった。流通経済大学・中野雄二監督は「運があった」とした上で、「うちの控え選手は『途中から出る力の選手』じゃない。誰が出て(レベルは)変わらないし、途中交代の選手が活躍するのは当たり前。それができなければ外される。その強みが出た」と。試合終盤の一瞬の隙を逃さない勝負強さと、選手層の厚さ。3連覇を狙う流通経済大学が、きっちり4強に駒を進めた。



Reported by 岡田浩幸(読売新聞社運動部)

明治大学 vs 東洋大学

2015年8月12日(水) 18:00キックオフ
会場/ヤンマーフィールド長居 天候/晴 入場者数/487人

明治大学	2	0-0 2-0	0	東洋大学
49分 小谷光毅(藤本佳希) 63分 藤本佳希		得点 (アシスト)		

関東勢同士の対決は、第1代表・明治大学が制した。際立ったのは、安定感のある守備。センターバックのDF3,小出悠太(3年)とDF4,小池佑平(4年)を軸にラインをきっちり保ち、裏へ抜けようとする相手の攻撃にもしっかりと対応。ポゼッションにも定評のある東洋大学に対して、MF5,柴戸海(2年)、MF15,伊池翼(3年)の両ボランチが精力的に動き、東洋大学の得意の形を作らせなかった。危険な場面と言えば、37分に自陣ペナルティーエリア内で与えた間接FKくらいで、それも体を張ってはね返した。「全員が同じ意識を共有でき、運動量も落ちなかった」と栗田大輔監督。さらに「いい守備からいい攻撃につなげることができた」と話したように、攻撃陣もFW25,土居柊太(2年)の突破やFW11,藤本佳希(4年)の縦へのスピードを生かした攻撃を展開。後半開始早々、右サイドからグラウンダーのパスをMF8,小谷光毅(4年)が相手をかかわしながら受け、シュートを決めて先制。さらに63分には藤本がハーフウェーライン付近からDFの裏へ抜けると、そのまま持ち込み、GKもかわして追加点を挙げた。東洋大学も攻撃的な選手を投入して猛攻をしかけたが、明治大学の鉄壁の守備は最後まで崩れなかった。明治大学は連戦などを考慮し、初戦だった2回戦から5人を入れ替えたが、プレーの精度はまったく落ちず、栗田監督は試合後、「今季のベストゲーム」と手放して絶賛。盤石の試合内容で、4強へと進んだ。

